

会報 マリアン

発行 ノートルダム女子大学同窓会

卒業生の皆様へ

学長 シスターメリーマイクル田代



同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年で平成三年、一九九一年です。皆様は母校ノートルダム女子大学もいよいよ創立三十周年を迎えることとなります。神に祝福され多くの方々に協力をお願いして本学もようやくこの大きな節目に辿り着くことが出来ました。目下、感謝の心で来し方を振り返りながら三十年史の編纂、記念事業の検討などが行われております。同窓生の皆様にも何らかの形で祝賀の行事に加わっていただきたいと考えております。

シスターメリーユーージニアのことではないでしょうか。シスターメリーユーージニアは、昨年五月二十四日奇くも昇天の大祝日に天国に旅立たれましたが、シスターは晩年アメリカに帰国されました。心は日本に留まり、同窓生の皆様のこととノートルダム女子大学のことを日夜思い続け、皆様のため本学のため絶えず祈って下さっております。

マザーテレジアゲルハルディンガーの命日もこの聖母月の五月九日であることもお知らせしておきたいと存じます。今やこのお二人の方々が、天国から私達を温かく見守り、私達がノートルダムという絆に固く結ばれ神と人々への愛の実践に努めるよう励まして下さっておりますに違いありません。

ではこの一年間も皆様の上に神の祝福と聖母マリアのご保護が豊かにありますように心よりお祈りして御挨拶とさせていただきます。

総会へのご案内

同窓会の皆様お元気でお過ごしでしょうか。今年も、同窓会総会へのご案内をさせて頂く頃となりました。今年で十期生の担当です。ゲストに、シャンソン歌手の青地能里子さんをお迎えしてさわやかな五月の一日を、美味しいお料理と美しいシャンソンの調べでお楽しみください。多くの方々のご出席をお待ちしています。

十期生一同

日時 五月十九日(日)

十一時半～三時

場所 宝ヶ池プリンスホテル

(七二二―二二二)

ゲスト 青地能里子

会費 大人 六千円

子供 千円

(ベビシッター付)



ごあいさつ

会長 塩田 久 慧

(渡辺 二期生)

風薫るさわやかな季節となりましたが、同窓生の皆様お元気でお過ごしでしょうか。今年のお報マリアンは「シスターメリーユー・ジニアを偲んで」という特集で皆様のお手元にお届け致します。ノートルダム学院の創立者であり、長年にわたって大学の初代学長でありましたシスターメリーユー・ジニアが帰天されました。早や一年になろうとしております。私が初めてシスターにお目にかかったのは中学入試の面接の時でした。その時のハビット姿のシスターのお姿は、この世の方とは思えない程神々しく崇高に思えました。話される片言の日本語の中からにじみ出る賢さと暖い優しさに以来ずっと憧れ、アメリカにお帰りになった後も心の中にいつも生き続けて私の生きる道となって下さっています。シスターが日本の女子教育に全身全霊を捧げられた偉業はシスターのプ

ロファイルをお読みいただければおわかりですが、私達も立派な指導者の足跡を辿る事によって私達に残していかけた教えの一つ一つを思い起こしそれを一つでも多く実践する事が私達同窓生の使命ではないかと考えます。今ここに改めてシスターメリーユー・ジニアを偲び、心より御冥福をお祈り申し上げます。

さて、今年大学は創立三十周年を迎えます。心よりお祝い申し上げます。大学の増々の御繁栄をお祈り申し上げます。このおめでたい年に、皆様にとっておきのお知らせがあります。詳しい事は「同窓会館設立へゴーサイン」の記事を御読みいただければおわかりですが、かねてより同窓会の念願でありました同窓会館がいよいよ設立へ向けてスタートする事になりました。まだ遠い先の事だと思っておりますので、このニュースを顧問のシスターからお聞きし

た時一瞬夢ではないかと思いましたが、お話をうかがっている内に嬉しさがこみ上げて来て、見せて下さる土地の取図からしばらく目を離す事が出来ませんでした。私達の熱意をお汲み取り下さいました大学の御好意に感謝の心で一杯でございます。これから同窓会館建設という目標にむかって一日も早い実現を目指してがんばらなければなりません。どうか同窓生の皆様の温かい御支援と御協力を宜しくお願い申し上げます。

ところで、皆様のお役に立てればと会長をお引き受け致しました。早や二年が経過致しました。大役をなんとか無事果す事が出来たのも、シスター始め、役員の方々並びに同窓生の皆様の御支援があったからこそと感謝し心よりお礼申し上げます。今後の同窓会の一層の御発展と会員御一人御一人の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます。ごあいさつにかえさせていただきます。



関東支部だより

小川 淳子
(熊倉 七期生)

平成二年春より新たに発足いたしました関東支部、会員数は、現在三百四十四名となっております。支部会は、二年に一度の開催で、今年は平成三年十一月十七日(日) 十二時～十五時

- ホテルニューオータニ 「バルゴ」 四十階
- 会費 八千円

と決定いたしました。

入会御希望の方は、左記へ御連絡下さい。関東支部会員名簿と会費納入振替用紙を送付します。会費は千円(二年分)です。

役員 小川 淳子(熊倉七期生)

中部支部だより

鳥澤 佳代
(田畑 五期生)

昨年十一月二十日、五期が幹事となり、プリンススカーデンホテルで第二回の支部会を開く事が出来ました。平日の為シスター方は御欠席でしたが、本部役員の方々の御出席をいただき時を忘れて楽しいひとときを過ごす事が出来ました。

この度、斉藤様、加藤様、小林様が任期を終えられたので、新しく村松(七期)、八十(七期)、鳥澤(五期)がお手伝いさせていただきます。事になりました。

御意見等、お寄せいただくと嬉しく思います。



ノートルダム女子大学創立者



シスター メリー ユージニア レイカー略歴

Sister Mary Eugenia Laker SSND Personal History

1901年2月8日	誕生 Birth
1901年2月10日	受洗 Baptism
1914年	聖ヨゼフ小学校卒業 Graduation St. Joseph
1915年	ロザティケイン高等学校卒業 Rosati Kain High School
1915年	ノートルダム教育修道女会 セントルイス管区の最初の8人の志願者の一人として入会 One of the first 8 candidates in St. Louis
1917年	ノートルダム教育修道女会 志願期、ポストランド期 Postulant
1919年	修練期 Novice
1921年7月21日	初誓願 First Vows
1927年7月16日	終生誓願 Perpetual Vows
1946年	銀祝 修道生活25年 Silver Jubilee
1948年	米日 Missionary in Japan
1971年	金祝 修道生活50年 Golden Jubilee
1981年	ダイヤモンド 修道生活60年 Diamond Jubilee
1982年	帰国 Returned to the U. S.
1990年5月24日	帰天 Died

会における使徒職

Ministry

1920年～1984年	アメリカ・ミズリー州セントルイス、その他の都市の小学校、中学校、高等学校、大学で教え、また校長職に従事 Elementary through College Teacher and Principal
1922年～1932年	セントルイス・マザーハウスの志願者の補佐修練長 Assistant Aspirants' Mistress
1941年	セントルイス大学の哲学博士の学位取得 PHD St. Louis University
1948年11月	最初の外国宣教者の一人として日本に派遣 First SSND Missionary to Japan
1949年1月	京都市左京区鹿ヶ谷にノートルダム修道院設立 Shishigatani Convent Established
1951年8月	修練院設立 Novitiate Established
1952年4月	ノートルダム女学院中学校設立 ND Middle School Established
1953年4月	ノートルダム女学院高等学校設立 ND High School Established
1954年4月	ノートルダム学院小学校設立 NDE Established
1961年5月	ノートルダム女子大学設立 NDWC Established
1969年2月	日本教育界貢献のため勲四等瑞宝章受賞 Japanese Government Education Award

「シスターメリー ユージニアを偲んで」

シスターメリー

セリーン松本

今年は、大学創立30周年を迎えます。私がシスターになって、いただいた最初の使徒職は、一九六一年に開学することになったというノートルダム女子大学で働くことでした。学長シスターユージニアから寄宿舎の舎監、英文科の責任を持つように言われた時、ただ、驚きと恐ろしさで身も心も震えたことを、未だに覚えています。そのような役目を若輩の身である私が引き受けられるはずがなく、「シスター」であるというだけで、罷り通ったことなものでした。「どうしてこのようなことが？」と自問し、二の句もつげず、呆然として返事のしようのなかった私にかまわずシスターユージニアは、「You can do it」と威厳をもっておっしゃるだけでした。私は一言の弁

解も断りをする余地もなく、「従順」の名のもとに受けて立つしかありませんでした。それ以来、何度も「You can do it」というシスターの鶴の一言で、私は開学早々の大学で初めてのことでばかりに挑戦せざるを得ませんでした。屢々シスターから注意されたり、お叱りを受けたり、時には、私は横柄にも口答えをしたりして、とにかく、その日その日を無我夢中で過ごしていたことを思い出します。

さいました。私はこの時とばかり、寄宿生のためにねだつて物を買っていただいたこともありました。

英語の授業は英語で教えるように言われました。時々、予告なしにお客様をつれて教室に入っておられるのです。そんな時、私はあがつてしまふ「i」と「e」の順を間違えて単語を黒板に書いていたりして注意されたこともありまし。駆け出しの教員だった時から私を、直接間接にシスターは指導し、育てて下さったのだと思います。今ある私はシスターのお蔭だと感謝しています。

私が、最後にシスターにお会いしたのは一九八八年九月セント・ルイスのウィラにお訪ねした時で、しばしの間、シスターとご一緒に大学のことを語りあう機会がありました。シスターは、やや、現実と過去を錯誤されていたようでしたが、そのうちに、矍鑠とした在りし日の学長に戻られ、二十数年前の若い私を前にしているかの如く、「学生のアッセンブリーはどうなっているか、英文科の先生方は、

卒業生は……」などと尋ねられました。時々私の方が困惑してしまい、きき返すと「Tell you」と厳しくおっしゃいます。30分間くらい、シスターはその当時に戻っていらしたらしく幸せそうでした。私も、シスターとご一緒にしばし昔を懐しく思い出していました。その間、何回もシスターが口にされたことばは、「Keep the spirit」とでした。シスターにとつてノートルダム女子大学学長として過ごされた日々は、生涯の最高の良き時代だったのでしょう。設立のご苦労があっただけに、大学はシスターにとつて「My college」だったのです。ですから、大学が建学の精神を保ちながら、発展していくことを常に念じていらつしやうたのだと思います。学長を退職なさった後も、時代とともに変化していく大学を目のあたりに見て、直接関係されないうに懸念され、感慨深げに「Keep the spirit」と私によくおっしゃいました。アメリカに帰られた後も、シスターの心はいつも大学と共にあったのだと思います。日本へは、

再び戻られることなく神の許へ召されましたが、今は、今までと同じように、いや、かえって物理的隔たりに制限されずにもっと親しく、私たちと共にいてくださることと信じます。そして、「Keep the spirit girls」と卒業生に向つて、時には厳しく、時には優しく言い続けておられることでしょう。

シスターマルグリット塩田

一九四八年来日以來、一九八二年帰国なさるまでの三十四年をただ一つの目標、「日本における真の女子教育」のために盡瘁された今は亡きシスターユージニアの姿を思い出す時、シスターの全生涯を推進した原動力は、「信念」という言葉につきると思われまふ。「教育のために神から遣わされた」という信念のもとに、シスターは、ノートルダム教育修道女として、会の創立者マザーテレシアの「カトリック教育の理想」を教育の現場に実現する事が、シスターの全生活の目標でした。しかし、来日後間もなくシ

スターは、カトリック教育と日本文化の中の教育とは、全く同一の基盤の上に立つものである事を身をもって感じ取られたのでした。

スターが折にふれて口にされる言葉は、「私は希望して日本に来たのではありません。神様が私を日本に遣わされたのです。ですから私は死ぬまで日本の女子教育のために働き、日本の地に骨を埋めます。」と日本をこよなく愛し、カトリック精神に基づく女子教育のために生命を燃やしつくりして後、日本の地に骨を埋めるという事がスターの生涯の目標でした。余儀ない事情のため、日本の地に骨を埋める事が出来なかったのは、スターご自身にとっても、又、私達にとっても、誠に残念なことですが、今、スターは天国から、ノートルダム諸学校を見守り、私達ノートルダム諸学校に関係する者一人ひとりの上に、神の恵みをあおぎ、私達一人ひとりの祈りを、神の御前にとり継いで下さるに違いありません。

シスターテレサ

マーガレット

社会を変える最善の方法は教育を通じてです。シスターユーージニアの信念は卒直にいつて、ノートルダム教育修道女会の創立者、マザーテレジア・ゲルハルディンガーの理想そのものでした。マザーテレジア・ゲルハルディンガーは社会を変える最善の方法は若き女性・婦人がよき家庭生活を営むことによって社会を変えることができるように、彼女達に徳育と知育をすることだと感じていたのです。シスターユーージニアが一九四八年、日本に派遣された時、正式に与えられていた使命は学校を設立することでした。学校を設立することが彼女の責務であり、彼女は創立者となったのです。しかし、彼女の仕事の一端を荷った人が他にたくさんいたということを認めるなら、まずシスターがそのことを認めていたでしょう。シスターユーージニアは、いつも通訳を通し仕事をしていましたので(多忙のあまり語学を学ぶ時間がなかったため



1948年来日された4人のシスター方

シスター リチャード アン フィッツギボンズ、シスター ヴィヴィアン ハゼレット、シスター メリー ポール ニーマン、シスター メリー ユージニア レイカー(左端より)

で、このことは実際、シスター自身がいつもとても残念に思っていたことでした。学校設立計画が進むにつれて、限らない時間を使つての建築家工事請負人、弁護士それにビジネスマンとの交渉は本当に大変なことでした。

校舎を建て、設備をし、そして教職員を集めるということとは多額のお金を要するということです。小学校だけでなく中・高等学校への最初の資金はアメリカから寄せられたもので、ノートルダム教育修道女会とその会員の親戚及び友人達、何千人にも及ぶ児童と彼らの両親そして募金のために諸行事を主催して下さった教会から寄せられたものでした。五セント寄付下さった方もいれば、数千ドル寄付して下さい下さった方もいらっしゃいます。その額の多少にかかわらず、すべてが学校設立の助けとなりました。

シスターは、学校用地の購入や文部省の認可、書類提出のために府庁に何度も出かけたりしていつも多忙でした。次にシスターは学校法人組織を発足させ、カリキュラムに

必要なもの、教員、入学試験開校式、制服、校章そして校歌を考え出し話し合わなければなりません。煩雑な官僚的仕事には終わりが無いように思われました。しかし言葉の障壁や教育制度の違いが数々あるにもかかわらず、シスターは一九五二年四月、正式に中学校として一九五三年四月に高等学校を開校しました。

男女共学の小学校を求める声があがりました。今度は、京都市の北部に買収した土地にもうひとつ別の学校が建てられました。建物がまだ完成していませんでしたのでノートルダム女学院にて入学試験が実施され、一九五四年四月二十一日、男子七十名、女子五十四名で入学式が挙行されました。わずか三年間で三校もノ奇跡でしょうか。いいえ、数々の苦勞を克服し、これら全てのことがなかったのは、シスター・ユー・ジニアの信仰と勇氣、そして神への信頼と祈りの賜でした。しかし、これが終わりではありませんでした。ぜひ大学をという要望があったのです。ところがすでに、ア

メリカからはとても多くのものをもらっていました。土地と学校をです。なのに今度は大学もです。それで父母の会は大学設置委員会を設立し、募金委員会を設けました。あらゆる社会的地位につく方々——最高裁判所長官や日本の元首相でさえ——の協力を得るため全員が疲れも忘れ取り組みました。全ての許可が得られ、建物が完成し、調査の日が来しました。一九六一年二月十一日、文部省からシスター・ユー・ジニアあてに最初の申請で無条件で四年制大学が認可されたのは、これが初めてだという通達が届きました。私達の心は、神への賛美と感謝に溢れ、この最後の夢をかなえるのに懸命にご尽力下さった人達への感謝でいっぱいでした。

シスターは一九四八年に日本に派遣された時に与えられていた学校設立という使命を成就したのです。シスターの業績は一九六九年三月十二日勲四等瑞宝章を授与されたこととでわかります。日本では西欧への開国三百周年記念を祝いました。日本在住の外国人の中でなんらかの点で日本の教育界の発展に貢献した人達が裕仁天皇陛下から賞が与えられたのです。シスター・ユー・ジニアも教育界への貢献、特に女性の教育界への貢献でこの栄えある賞を授与された一人でした。

シスターは日本で三十五年間を過ごしました。日本と日本人の人々のために、絶えず働き続けました。彼女は日本人々をとっても愛していましたので、アメリカに帰国しなければならなかったことは、大きな苦しみであり悲しみでもありました。しかし、いつも神の御意志を求めていましたので、生涯で最もよい年月を捧げた日本をあとにしたのです。彼女は帰国してから日本を愛し、もう今では彼女のものとなくなってしまった深い心の平安についてよく話していました。

一九九〇年五月二十四日、シスターは神に召されました。彼女は数多くのお恵みを日本と日本人の人々にもたらした、彼女も多くの恵みを受けたのです。どうかシスターがいつも日本をノートルダムのため

に神にお取り次ぎ下さることをお祈り致しております。

シスター・メリー
ジョセフ・続木

一九五二年の春ノートルダム女学院開校並びに入学式で、シスター・メリー・ユー・ジニアは本学院開設の目的と教育指針及び本修道女会についての歴史などを紹介されたことを始めとして、小、中、高の校長、女子大学の学長、学院理事長をされた三十年間にどれ程多くの挨拶の辞や講話を述べられたことであろう。

一九八二年六月に帰国され再度来日の折りは図書館長室兼研究室の整理をされ乍ら乞われるままに話しをされた中にはN・D・唐崎修道院の志願者及び修練女達への講話があった。シスターは旧約聖書から選んで先づアブラハムが登場した。名の語意は「多くの国民の父」又「高貴な人」と意味づけられ「ヘブル人」と呼ばれた最初の人。この語は「場所から場所へ渡り歩く者」の意味で彼の生涯をよく表わしていると言う。彼の家族はメソポタミヤのユフラテ川下流に栄えたウル（ペルシア湾に近い）に住んだが父テラは息子達を連れてハランに移住する。物語はその頃から始まる。

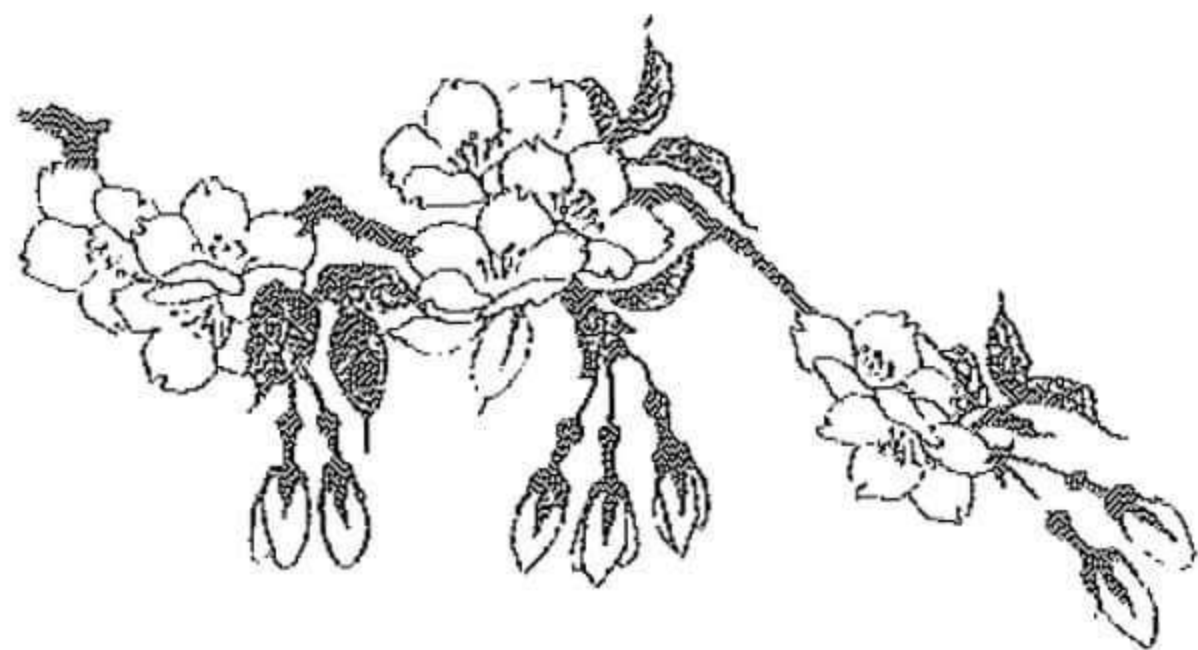
——創世紀十二章——

ときに神はアブラムに国を出て親族に別れ父の家を離れわたしが示す地に行きなさいと命じる。彼は従い未知の土地に旅立つ。其時彼は七十五才妻サラは六十五才。小財産と幾人かの人を携えてカナンの地（パレスチナ）に放浪とテシマク又危険な遊牧に頼る旅を続ける。さてサラとの間に一子が生れたのは彼が百才の頃で間もなく彼の生涯の最大試練が起る。「アブラハムよ汝の愛する子イサクを燔祭に捧げよ。」

——二十二——

このときもアブラハムは驚異的な絶対服従をするのである。族長として彼は神と民との契約が維持される為に自身の犠牲をも主を信じることによって捧げたのである。それ故神は彼の義を認められた。二十二の

「信仰の父アブラハム」と結ばれたシスターのうちに私



は悠然とした族長の風格が重なりあっている様に見受けた。考える人祈りの人常に備えのあった学長を今尚慕わしく偲ぶのである。

註・主人公のアブラムは後に神によって「アブラハム」と改名？呼ばれるのである。

創世紀十七章の⑤

— 思い出すままに —

ノートルダム女子大学名誉教授

渡 辺 純

私がN.D.にお勤めさせて頂いたのは、1965年4月からであった。それに先立って、始めてシスターユーニアに学長室でお日にかかったのであるが、彼女の威厳とやさしさに満ちたお姿と、何とも美しいお声にのって伝わって来る clear な発音に、これこそ spoken English の「うるわしさ」の典型だと、深い感動を覚えたのである。

私が英語英文学科主任となつてからは、当然のことながら、学科の諸要望、特に equipments に関するものが多くなった。ある時いわゆる英文研究室づとめのお嬢様方から、冷え症防止用に、カーペットを是非お願いしたいという切実な声がおこり、例によって私がその旨を伝えるべく、学長室へまかり出たのである。彼女らの訴えを私なりに懸命に説明したのだが、中々すぐにOKは頂けそうもなく、“Mr.Watanabe, you're a salesman.”ときめつけられたのである。この一言は、彼女の irony と humor の渾然一体の一大傑作として、謹んでうけたまわったのであるが、おいとまするにあたって、“I'll think it over.”と含みのあるおまけを頂いて、ひきさがった次第である。後日、カーペットはめでたく研究室のお嬢様方の身も心もあたためることとなったのである。

その後も何度も私はシスターユーニアの前へ“a salesman”としてあらわれ、売り込み(=買い込み?)にほぼ成功をおさめ得たことを感謝の念をこめて思い出すのである。

きびしさとあたたかさを兼備された教育者としてのシスターユーニアの安らかな御霊に、このつたない思い出の断片を捧げ筆を擱くこととする。

● 軽の素が地、ゆらゆら
死にた

多かれ、
少かれ、
死にた

中 島 克 子
(長谷川 一期生)

磯 野 高 子
(川田 二期生)

所 明 子
(荒川 一期生)

シスターの御元氣な御姿を最後に拝見したのは第一期生の卒業二十周年の記念パーティに御出席いただいた時でした。私達の記憶の中のシスターは終始氣高く毅然とされ、厳格な中にも温かく慈母の愛の様な存在です。シスターの口癖は“Live up to N.D. spirit.”でした。それは常により高きをめざし、誠実に日々を大切に生き、愛を実践せよということだと思えます。シスター御自身がその生きた御手本でした。私達もそれを胸に深く刻み、ノートルダム

女学院で五年、大学で四年校長様、学長様として敬愛し、仰いだシスターの思い出は山ほどあります。中でも高校入試の結果をうかがいにおそろおそろ校長室に入ると、ひどく悪かった数学の点数を指して私の顔をのぞきこまれたこと、遅い結婚のお知らせと御招待に上がるとそれはうれしそうに“at last!”と言われたこと、そして最後に訪日された折、クラス会を開きたいので、と御招待にうかがうとそれまでの威厳に満ちた印象は消えて静かに美しく老いられたシスターのやさしいお姿に感動したことがきのうのことのようです。神の愛のうちに安らかに憩われますように。

並河 舒子
(伊藤 三期生)

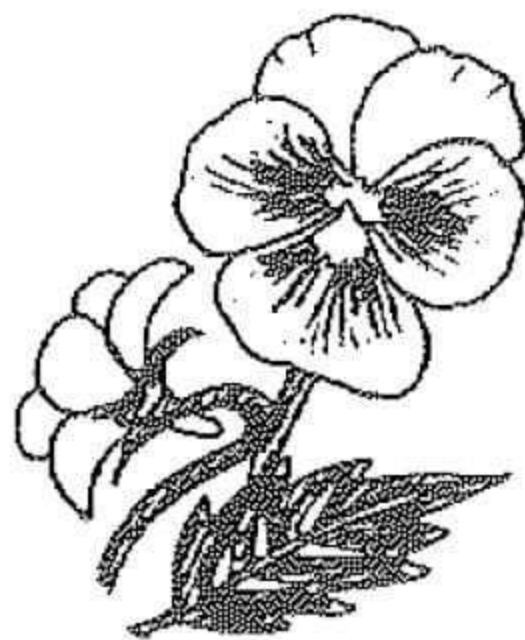
私がノートルダムでお世話になったのは大学創立前後の十年余りで、常に長でいらしたシスター・メモリー・ユー・ジニアは将に雲居の方でした。それが敬慕する方となったのは、お側で仕事をさせて頂き、その御人柄にふれてからというのが正直な所です。ND教育にその生涯を捧げられたシスターへの讃辞は枚挙に遑がありませんが、日本語に熟達なされなかった程に多忙を極められた日々を思いますと、孤高の方であったとの感じがし、胸が痛みます。

帰天され、却って身近かに私共を見守って下さっている気がしてなりません。神様の御許で安らかに憩われんことを感謝をこめてお祈り致します。

林 いく子
(上田 四期生)

中学・高校・大学と計十年間の数多いシスター・メモリー・ユー・ジニアについての思い出の中で、私が大学四年の時に学長様自らはじめてこの年のみ教壇にたかれた「スピーチ」のクラスが印象に残っています。週一回八時十五分からのこの授業を大変楽しみにしていらして、緊張気味の私達八名にユー・モアを交えて内容豊かに教えて下さいました。

卒業週間にこのクラスの発表として英語劇をする際、学長様はあの美しい気品溢れる声で神様の役を担当して下さいました。多様化する価値観の中で常に完成度の高い洗練された美しさを求めてこられた学長様に出会えたことに心から感謝しています。

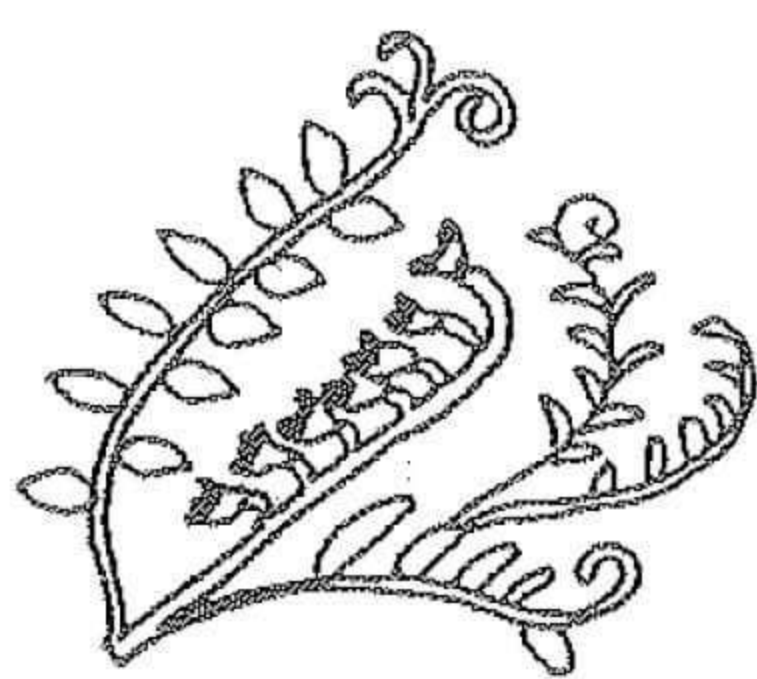
山 伸厚子
(五期生)

「来週迄にセリフをパーフェクトに覚えなければ、公演は中止しなさい！」いつもは柔和なシスターの目がキラリと光り、その厳しい口調に全員震えあがり、慌てて近くのお寺を合宿所に借りたのが、ESSの英語劇「オセロ」の公演十日前、三回生の時でした。私の役は悪漢イアーゴ、皆で稽古に明け暮れ、遂には寝言でセリフを叫ぶ人も出る仕末。公演が終了するやシスターは「コングラチュレーション！」と満面に笑みを湛え静かに手をさし出されました。胸が熱くなりました。教えて頂いた「愛と勇気と努力の大切さ。」いつも心に...

遠 嶋 素江
(六期生)

初めてお会いしたのは中学の面接でした。おどおどしている私にドアを開けて、優しく中へ入れて下さった事、昼食時に箸を一人一人手渡しして下さいされた事等、昨日の様に思い出されます。常はとても

厳しい方でしたが、御帰国直前にお会いした時は、とてもお優しいおばあ様のようで、「何故帰ってしまったのか」とお尋ねすると、「I would like to stay, as I worked here for all my life. But...」身体が老いて皆に迷惑を掛けるから。と言おっしゃった時は胸が張り裂けそうでした。きっと、今でも私達を見守り、励まして下さっていると思います。

橋本 千勢子
(橋本 七期生)

69年夏、アボロが人類初の月面着陸をした年、丁度第一回サマーセミナーがセントルイスで行われました。初めての催しの為シスター・ユー・ジニアが同行なさった時のことです。

確か全員でスクールバスでの移動中、目的地でもないのにバスが町角の店の前で止まり、シスターが降りていかれました。どうしたのだろうと待っておりますと、りんごのように頬をそめられたシスターが胸に大事そうに紙袋をだいてバスにもどられ、又バスは動き出しました。

後で聞いた話によると、袋の中身はオレンジで、シスターはオレンジが大変好きとのこと、アメリカにいらつしやる間に美味しいオレンジを召し上がりたかったそうで、御自身に対して厳格なシスターのとても人間味あふれる一面を拝見し、ホッと暖かな気持ちになれたのを記憶しております。今ごろは微笑みながらオレンジを召し上っているのでしょうか。



細野 陽子
(関 八期生)

シスターメリーユージニアの一番の思い出は、小学校のバザーで小さい子供を片手でひよいとお抱きになっていたお姿なのです。幼かった私には近寄り難い様な壮厳さの中にある美しい母性を、今になつて思えば、その時強く印象づけられていたのかも知れません。

初めて教わったのは大学に入ってからです。卒業後半年程、学長室でお手伝いした事もあり、その折シスターの質素な生活態度に心を打たれた覚えもあります。その後、名古屋に嫁ぎ、ヨーロッパに行きました。毎年欠かさず暖かくお心のこもったカードを下さいました。そのカードの飾れない今年のクリスマスは暖冬なのに心なしか寒々とした思いがしてなりません。

西野 洋子
(寺田 九期生)

私は寄宿生でしたので、ドア一枚を隔てた修道院にいらつしやるシスター方を身近に感じることができていました。でも何と言っても、シスターユージニアとの一番の強烈な思い出は一回生の私は、授業に遅れそうになり、友人と廊下を小走りに走つていました。その時、廊下でシスターユージニアにお会いしてしまいました。案の上、悲しうなお顔をなさつて、お叱りを受けてしまいました。二十二年も前の出来事なのですが、普段はやさしいシスターの突然の豹変に戸惑つたことを、今でもはっきり覚えています。

でもそれらは、確かに今日の私の貴重な糧となり、ますます懐かしうありがたく感じる昨今です。

はるかにご冥福をお祈り申し上げます。

佐藤 教子
(吉本 十期生)

シスターメリーユージニアは私にとって雲の上のお方といつも思っていました。英会話の授業の時は、コチコチになつて緊張のしっぱなしでした。

忘れられない思い出は私が三回生の時、その頃入部していたESSクラブでドラマ公演をし、無事に劇が終りホッとしていた舞台裏の私達の所に、わざわざシスターがおいで下さり「良かった。良かった。」とニコニコ顔で喜んでくださったのです。大学生活の中で、シスターにほめて頂いたのはこの時一回きりでしたので、本当に嬉しくて天にも昇るような気持ちだったことを思い出します。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

西村 寛子
(大島良子 十一期生)

常にきちんとした身嗜みと厳格な雰囲気、それでいて暖かさを秘めた御顔、どの一つをとっても私達N.D.に集う

者の長として、シスター程相應しい方はなかったと思われまふ。女性としての嗜み等には厳しく、がさつな私などはあの低く良く通る御声で何度かお叱りを受けたものです。御帰国前には御足の具合が随分とお悪くなつておられ、クラスからのお餞別にとカシミアのズボン下をお贈りしたところ、涙ぐんで喜んで下さつたお顔を今も忘れる事ができません。

シスターの御訃報に接し、改めて感謝の気持ちをお捧げし、心よりの御冥福をお祈りしたいと思ひます。安らかに。

新井 ひろみ
(岩崎 十二期生)

気品にあふれ、厳しさに満ちた学長様のお姿に、私は、日本の女子教育に半生をささげられた使命感と勇気を見る思いがしました。在学中、英語のスピーチを聞いていただき、その場で題まで考えていたたたいた事がありました。立ったまま肩を寄せて、窓の方を向き、一分間ほど考え込まれた後、「これはどうですか」

と、つけて下さった題は、素適でした。四年生の時、突然、推薦状を書いていただくようお願いしてしまつたのも、そんな思い出があつたからでしょう。厳しく、やさしく、気品にあふれる学長様は、私にとってのノートルダムそのものです。

中田 由利子
(小谷 十三期生)

私たち十三期生はシスターメリーユージニアに卒業証書を頂いた最後の学生でした。おごそかにそして分かり易くラテン語をお教え下さつた事が、つい先日のことのように思い出されます。困つてゐる学生がいたら優しくお声をおかけになり、生徒の気持ちを汲んで善処して下さいました。規律にも厳しく御指導されましたが、キリスト教的理念を持った良き女性になるようにと私共を導いて下さいました。シスターメリーユージニアが御自分の半生をノートルダム教育にお捧げ下さいましたことを深く感謝しますと共に心から御冥福をお祈り申し上げます。

同窓会各種講習会ご案内

課目	講師	内 容	日 時 ・ 場 所	申し込み先
聖書	シスター セリーン	聖書の読んだ箇所各人の感想とシスターの解説	大学多用室 第四月曜日 五月二十八日開始 十二時半～午後三時(PHPの後) 名古屋聖心センター (地下鉄市役所前下車) 第二月曜日(祝祭日の場合休み) 午前十時半～十二時	池 渕 律 子 加 藤 眞理子
PHPの 講 読	シスター セリーン	PHPによる現代問題等の英文和訳と内容についての討論 (日本語で行われます)	大学多用室 第四月曜日五月二十七日開始 午前十時四十分～十二時	小 永 井 宏 子
文学講読	シスター モーリー ブリンカー	文学作品についての講義と内容についての討論 (英語で行われます)	大学にて 五月十三日・二十日 六月三日・十七日 七月一日(以後未定) 午前十時四十五分～十二時十五分	久 萬 田 澄 子
英 会 話	シスター ジョアン	タイトルを決めてのスピーチや、フリーカンバセーション、能力に関係なく楽しく勉強できます。	大学にて 五月二日・十六・三十日 六月十三日・二十七日(以後未定) 午前十時半～十二時	小 野 佳 子
ボランティア活動	手芸品製作(売り上げ金はインドネパールへ)		四月十九日(金)・五月十七日(金) 六月二十一日(金)・九月二十日 十月十八日(金)・十一月十五日(金) 大学多用室 午前十時～午後二時	人 長 久 巳 子
食べ歩き会	年一回お食事しながら、楽しいひとときを過しましょう。 (申込者十名に達しない場合は中止となります)		日時 十月十五日(火) 午前十一時半～ 午後二時 蕉 庵	中華料理 (八、〇〇〇円前後) 申し込み先 下水木 淑子

○ 各クラス受講料は無料。

○ ベビーシッターは有料ですが、可能ですので前もってご連絡下さい。

○ お申し込み、くわしい日時・場所その他ご質問は各責任者になさって下さい。



学年だより

二十五周年のクラス会にて

白井 君子
(高田 一期生)

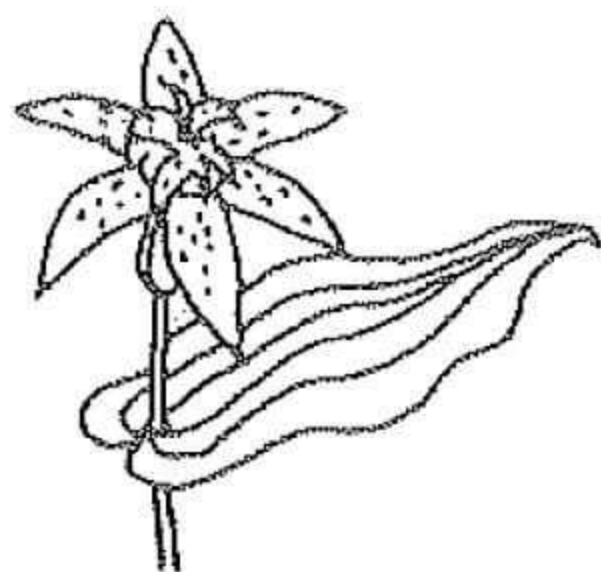
オドナヒュー神父様、シスター方を迎え、卒業以来二度目のクラス会。北海道から、九州まで、懐かしい仲間四十数名。卒業後初めて会う人、二度目の人、思いは色々、それでも久し振りに学生気分に戻って、楽しい会話がはずみました。息子や娘達の結婚話にまで及び、それぞれ太め？細め？の良いお母さんであり、妻であり、又女性として、すてきな年輪を積み重ねての出会いでした。

又次のクラス会には、ステキなおばあちゃんの方もいらっしゃるかもしれませんね。

卒業後二十年の集い

福原 七穂子
(福田 六期生)

「あの人は誰？あの人は？」と姦しいうちに、6期生20周年の集いが始まりました。10月25日の西陣天舘には京都在住の方々に加えて、初めて出席された方あり、他府県からみえた方、遠くは早朝四国から参加して下さったお二人の姿もありました。上品な京料理に舌鼓を打ち、お喋りに花が咲くうち気が付けばそこには一寸貫禄のついた40人の女子大生がおりました。庭の木々は紅葉に少し早く、小雨にしっかりと落ちついておりました。20年後、まさに紅葉の時ではありませんか。年を経て輝いていられたら……。不亦楽乎の感ありです。



同窓会館設立へ

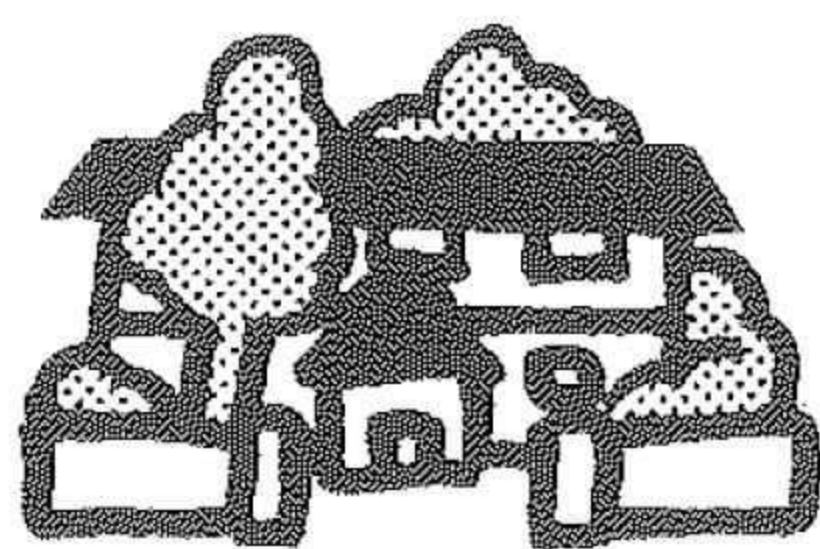
ゴーサイン!!

同窓会の念願でありました同窓会館建設がいよいよ実現される事になりました。大学側の御好意で岩倉の幡枝にある大学所有の土地の一部をお借りして建設が可能になりました。昨年の総会で同窓会館設立基金として相当額を当てる事を承認していただきましたので、役員会で検討の結果五千万円を設立の為の基金として計上しております。早速一月二十六日(土)に、ノートルダム女子大学同窓会館設立委員会が発足致しました。設立委員は、大学の意向と同窓会役員会の承認を得て選出された一期生六名及び役員会の役員二名で構成されます。

委員は、所明子(荒川)、中島克子(長谷川)、久萬田澄子(沢田)、白井君子(高田)、西村京子(山仲)、山本秀子(石岡)、高山敦子(和泉・次期会長候補)、塩田久慧(渡辺・現会長但し任期満了後交替予定)の八名です。

五月十九日(日)の総会で以上の

件について、会員の皆様の御承認をいただきたいと思えます。当日御欠席の方は、同封のハガキの委任状に必ず、署名・捺印の上、五月十日までに同窓会まで御送付下さい。なお、御送付のない場合は、委任されたものとさせていただきますのでよろしくご了承下さい。皆様にもよく御理解いただける事と存じますが、同窓会館設立には、巨額の費用が必要です。一人でも多くの会員の皆様の寛大なる御支援をいただかなければなりません。後日、同窓会館設立についての御説明とお願いが、皆様のお手元に届けられますので、その節はどうかよろしく御協力下さいませ。



ボランティア報告

人長久巳子
(東 七期生)

同窓会が創立二十数年を迎えた頃より、そろそろ社会のためになにかしようと思ひ、始めたボランティア活動も早五年が経ち、手芸品の売り上げ金の寄付も二度目となりました。

今回は全額四十七万円をノートルダム教育修道女会が運営されているインド・ネパールの活動に寄付することに決まりました。

今は、手芸品の制作・販売を中心に活動しておりますが、質の向上や販売場所の開発など、皆様のより一層の御協力をお願いいたします。

役員会だより

○新役員の改選について
左記の役員は今年度をもって退く事になりました。

会長 塩田久慧 (渡辺2)
副会長 植村暢子 (佐藤2)
書記 高木里美 (小坪3)
江頭真紀子 (米田7)

新役員候補者は次の方たちです。同封の葉書の信任・不信任のどちらかに○をおつけ下さい。

新役員候補者

会長 高山 敦子(和泉4)
副会長 林 満智子(寺田3)
西村 晶子(西村5)
会計 小野 佳子(谷出6)
下水木淑子(森橋9)
書記 小永井宏子(田中4)
伊吹 佳子(松本5)
会計監査 垣田加代子(瀬川6)
林寺真智子(浮田5)
山村美佐子(平松5)
坂井 陽子(安達6)
人長久巳子(東 7)

(ボランティア、広報を庶務という名称に変えさせていただきます。)

○平成二年度のマリアン・スカラシップ貸与者は一名と決定致しましたので、御報告申し上げます。

○同窓生の住所等のお問い合わせは、同窓会本部宛、葉書か手紙でお願い致します。大学へのお電話でのお問い合わせはご遠慮下さい。

一九九〇年度 活動報告

五月

○各種文化教養クラス春期開始(四月より)
○総会準備打ち合わせ
○総会
○本部新役員候補者公募
○支部会との役員会開催
○ボランティア活動開始
○会則改正の検討開始

六月

○シスターメリーユー・ジニア・レイカー追悼ミサ参列
○総会反省会
○名簿整理

七月

○大学別館起工式出席
○佐々木申二名誉教授告別式参列

九月

○各種文化教養クラス秋期開始

十月

○食べ歩き会開催(日本料理 萬重)
○本部新役員候補者選出
○会則改正の第一次案完成

十一月

○マリアンスカラシップ貸与
○大学主催平成二年度物語者の為の御ミサ参列
○第二回中部支部会出席

十二月

○文化教養クラス親睦クリスマスパーティー
○大学チャリティバザー参加
○「マリアン」二十一号原稿依頼

一月

○各種文化教養クラス冬期開始
○同窓会館設置委員会発足
○名簿整理

二月

○「マリアン」二十一号編集開始

三月

○新入会員への説明会
○平成二年度会計報告書作成
○平成三年度予算案作成
○第二十七回卒業式参列

四月

○「マリアン」等発送

平成元年度 会計報告

収 入

前年度繰越金	66,384,329
終身会費	5,580,000
資産運用利益	2,601,523
スカラシップ返済金	80,000
合計	74,645,852

支 出

総会費用	550,164
マリアンスカラシップ	840,000
卒業記念費	301,000
通信費	504,048
印刷費	272,856
関東支部活動費	150,000
中部 "	150,000
中部支部設立援助費	500,000
文具消耗費	24,020
交通費	177,280
クラスアクティビティー	245,000
雑費	139,843
慶弔費	67,200
会議費	245,757
合計	4,167,168
次年度(平成二年)繰越金	
貸付信託	62,120,000
金銭信託	5,826,305
富士銀行	2,292,963
現金	112,626
名簿代	126,790
合計	70,478,684



卒業生の皆様へ!!

ネパール援助へのお願い

シスターイヴァンジェラ

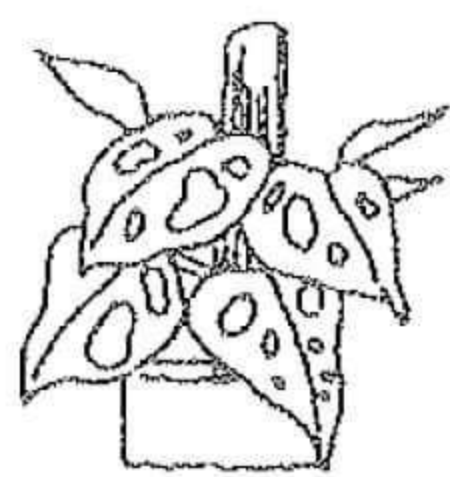
昨年八月、第三学期開始の日、「明るい」「広いね」「天国のようだ」と、大きな喜びと共に、バンディプール村のノートルダム校の生徒達は新校舎に入りました。山羊を追いついて使っていた今迄の教室は、壁にも床にも山羊のにおいのしみついた暗い部屋でした。それに比べるとガラスのある窓、コンクリートの床、大きな黒板のある教室は、教師にとっても「天国」と思える程です。これは、バンディプール村での教育活動を支援して下さる日本はじめ各国の方々の援助によって完成したものです。ノートルダム女子大学同窓会の皆様にも



心から感謝を申し上げます。

一月から始まった今年度の生徒総数は約二百四十名。教室がまだ不足です。ホールや管理棟も必要です。これらの校舎を完成させ、村の子ども達により教育を与えたいと願っています。これから皆様への御支援をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ先
ノートルダム教育修道女会



「インドへ友愛の手を！」

シスターポーラ岩城

大学同窓会の皆様には、いつも何かとご協力をいただきありがとうございます。おかげさまで、このグループも発足以来十二年目を迎え、今までに援助を受けたインドの子供たちも三千名をこえました。私は昨夏二週間ほどインド各地を回り、日本からの援助で教育を受け、今は村のリーダーや学校の先生になっている青年男女に会いましたが、「教育を通して自立を助ける」というこのグループの目的が実りつつあるのを見て感動いたしました。

今年はコウト村に職業訓練校を建設する予定です。子供たちがここで手に職をつけ、次々に自立していく姿を夢見ています。どうぞ皆さま方のご支援をお願いいたします。援助の方法は二通りあります。一つは定期援助で、一人の子供の里親になって毎月二千円、年額二万四千円をお送りいただくもの、もう一つは一時援助で、住居・医療や先きに書いた職業訓練校などの

ために、いつでもおいしくもお送りいただくものです。

お問い合わせ

ノートルダム修道院 シスターポーラ岩城まで。

ノートルダム女子大学
〒606 京都市左京区下鴨南野々神町1
Tel(075)781-1173



『ご案内』

本年、母校は創立三十周年をむかえることになりました。大学では、これを記念して様々な催しがおこなわれる予定です。母校の平安と発展を祈り、祝す意味で創立三十周年記念式典に御参加いただきたいと存じます。

左記の要領でおこなわれますので、何卒御参加下さいませよう御案内いたします。

記

日時 平成三年十二月十日(火)

午後一時より

場所 国立京都国際会館

大会議場 白鳥の間

内容 記念式典・御ミサ・記念パーティー(無料)

『お知らせ』

ノートルダム教育修道会日本地区評議会より、同窓生の皆様にお知らせがあります。シスターメリーユー・ジニアが日本宣教について書かれ、米国で出版されました「Notre Dame Goes to Japan」という本が非常に沢山送られて来ています。卒業生の方で興味のある方々にお買い求めいただければ幸いです。

○申し込み先

ノートルダム教育修道女会

地区オフィス

○価格 三千五百円(送料別)どうかよろしくお願い申し上げます。

一九九一年度夏期 英語講座への御案内

—卒業生の皆様へ—

楽しみながら英語が上達する私たちの夏期英語講座へふるって御参加下さい。

場所 ノートルダム女子大学
日時 7月31日(水)～8月4日(日)
7月31日のみ9時より
始めます。(参加者の登録のため。)

8月1日から最終日まで、9時30分～3時30分です。

内容 基本的な聞き話す技術をさらに向上させます。

クラス 5クラス(4クラスは教室で、1クラスはLJで)

講師 アメリカからいらっしゃる4人のシスターとシスタージョアン。

費用 5日間：二万五千円

(この内五千円は、申し込みの時に払って頂きます。この五千円はキャンセルされてもお返し致しません。)

注意 学校には宿泊できません。昼食は持参して下さい。

さい。参加者と一緒に頂きます。

申し込み 参加希望の方は、住所を記入した返信用の封筒を同封して、左記の住所へお申し込み下さい。

〒606 左京区下鴨南野々神町1

ノートルダム女子大学
シスタージョアン

祝御入会

本年度は、英語英文学科一八九名、生活文化学科七七名が三月八日に御卒業になり、同時に第二十七期の同窓会員となりました。御入会を歓迎いたします。

これで同窓会員数は、五、九二九名となりました。

本年度二十七期の学年委員は次の方をお願いします。

英語英文学科

芦田 祐里子
高橋 佳代子

生活文化学科

岸 靖子

おくやみ

左記の方々がお亡くなりになりました。御冥福を心からお祈り申し上げます。

シスターメリーユーージニア
レイカー (名誉学長)

平成二年五月二十四日

浮網正雄様(用務職員)

二年二月二十日

田中宗慶先生(茶道指導)

二年六月六日

佐々木申二先生(名誉教授)

二年七月二十二日

アレックスホルプス先生

(非常勤講師)

二年十月十四日

古屋義之司教

(前カトリック京都教区長)

二年二月二日

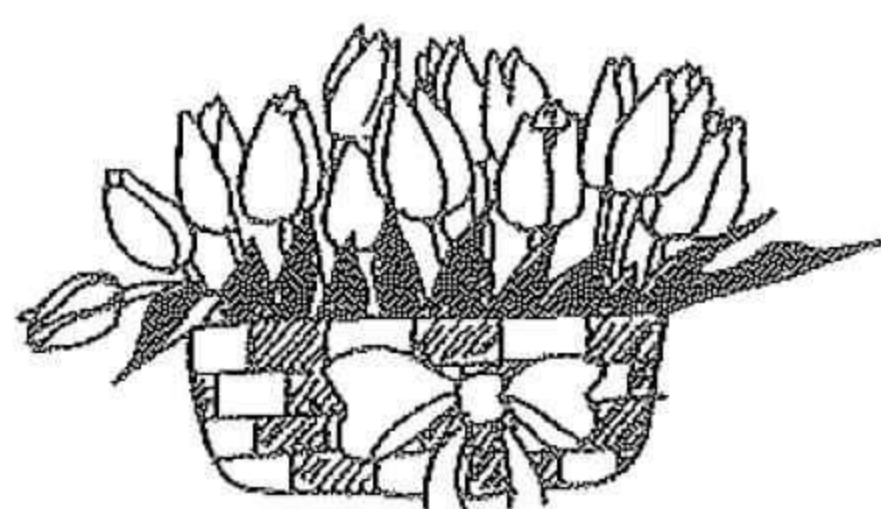
おねがい

毎年、十一月三日の大学祭に参加しております同窓会のバザーは年々好評になってまいりました。それも皆様方からの御寄贈のお陰でございます。本年度も同様、御寄贈して頂く品物をごいましたら同窓会宛ご郵送下さい。

何れの品物でも結構です。

(古着は除く)

御協力お願いいたします。



編集後記

今年度もマリアン二十一号を皆様のお手元に発送するところが出来幸せに存じます。今号はシスターメリーユーージニアの特集をくみました。原稿をお寄せいただきました皆様方に心より感謝申し上げます。今後共、皆様のご指導とご協力をお願い致します。

訂正・お詫び

平成二年度マリアン二十号で西岡敬子様の文字に誤りがございました。お詫びして、訂正致します。

